

# オープンデータの活用可能性に関する研究

## －企業のビジネス活用に向けて－

### アブストラクト

#### 1. 背景

オープンデータの活用により、社会改革・新ビジネスの創出が実現されてきている。しかし、データの出し手側、受け手側双方の機会が高まってきているにもかかわらず、国内でオープンデータを活用してビジネス化に至った事例は少ない。

国内にビジネス活用事例が少ない理由は、企業が「オープンデータのビジネスへの可能性が分からない」ため、オープンデータ活用に二の足を踏んでいるからだと考えた。そこで、本分科会は、オープンデータ活用の課題と解決策を明らかにし、企業におけるビジネスとしての利用価値の検証を行うことにした。

#### 2. アプローチ/内容

以下の4つがオープンデータの活用を推進する上での問題点であると考えた。

- 問題1: 提供されている情報の少なさ
- 問題2: データの統一した仕様のなさ
- 問題3: ビジネスの立上げに関する参考情報の少なさ
- 問題4: ビジネスの発展性の不明さ

上記の問題点に対して、オープンデータに対する知識のない企業が、オープンデータを活用するための課題とアプローチを、以下のように3つ設定した(図1)。

##### (1) 参考になる活用事例がない

オープンデータに対する国内の企業や団体の取り組みが、ビジネス活動に活かせる状態で公開されていないことが課題となっていると考え、これらの事項をまとめた「ベストプラクティス集」を作成した。

##### (2) オープンデータの使い方が浸透していない

オープンデータを取り扱うための手順などの資料が少ないことが企業のビジネス適用への課題となっていると考え、これらの事項をまとめた「スタートアップガイド」を作成した。

##### (3) オープンデータの将来像が分からない

企業は、5年後・10年後のオープンデータを取り囲む国や自治体の環境整備、インフラ基盤が整った後に見えてくる課題やビジネス価値などの将来像を見出せていない。それらが、オープンデータに取り組みない課題となっていると考え、オープンデータ本来の価値を最大限に発揮したサービスが提供可能な状態における将来像を策定し、ビジネス活用案の検討を実施した。

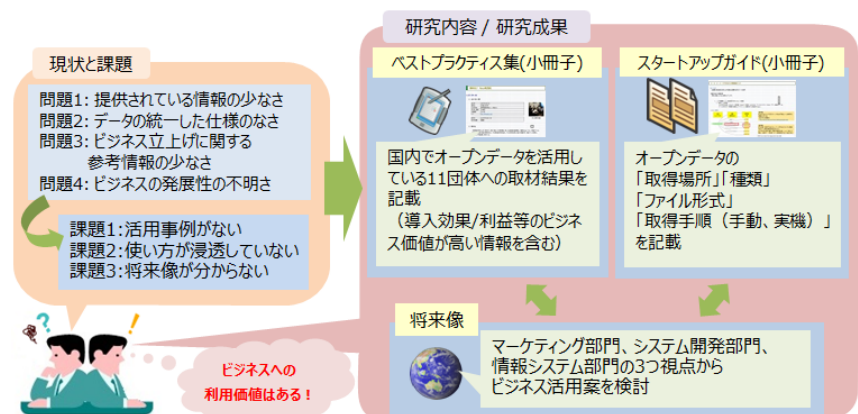


図1 研究のアプローチ/研究内容のイメージ

### 3. 成果

#### (1) ベストプラクティス集 (小冊子)

ベストプラクティス集は、国内でオープンデータを活用している 11 団体へヒアリングを通して得られたビジネス利用までのノウハウをまとめた小冊子である。本分科会メンバーが、オープンデータへの取り組みについて実際にヒアリングを実施し評価を行った。本資料は、どのような効果が得られるのかなどのビジネス化につながる情報を収集し、ビジネスモデルやサービス内容のみならず、そのサービスを支える裏側の仕組みをオープンデータに特化して記載しているため、有用性が高いと評価する。

#### (2) スタートアップガイド (小冊子)

スタートアップガイドは、オープンデータの基本知識を習得するための小冊子である。取得場所は国の各府省、自治体、民間団体の他、海外のサイトも載せることで網羅性を高めた。取得手順は、ビジネス企画・検討段階の手動調査(図2)とシステム開発検討段階の実機調査の2つの方法によるデータ取得の手順を実行し、発生した課題、対処方法を記した。本資料は、初心者がオープンデータを取得する際に直面する疑問を解消するのに有用であると考えられる。

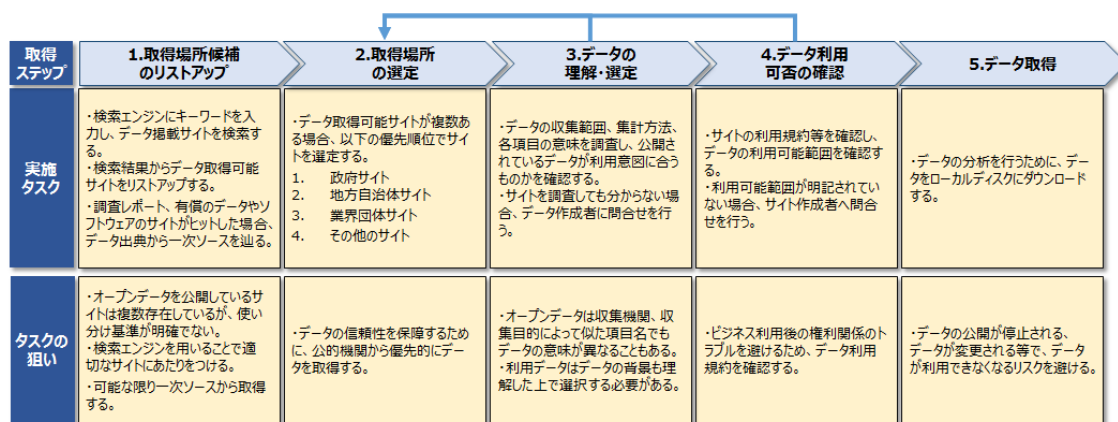


図2 オープンデータ取得の推奨手順

#### (3) 将来像

本分科会では、オープンデータ本来の価値を最大限活用できる将来像を、自由に使いやすいオープンデータ環境が整うことで、データ提供者とデータ利用者が密接につながり、データ流通が円滑化された状態であると考えた。また、「①マーケティング部門」「②システム開発部門」「③情報システム部門」の3つを軸とする将来におけるビジネス活用案を、以下のとおり示した。

- ① データ利用者が必要とする分析軸の活用によるマーケティング精度向上の実現
- ② データ活用ビジネス創出支援プラットフォーム
- ③ 攻めのIT投資を実現する自社保有データのオープン化

### 4. 総括

本分科会の研究成果は、これからオープンデータに取り組む企業がビジネスモデルとシステムの両方から活用の検討を深めることができ、すでにオープンデータに取り組んでいる企業では自社の取り組みを深化させることができるものだと考える。ただし、本分科会の研究は「オープンデータのビジネスへの可能性」の検討に留まり、オープンデータの取り込みまでは実証を行ったものの、自社データとオープンデータを組み合わせた実証はできていない。

### 5. 提言

本分科会は、オープンデータがすでにビジネスに利用可能な状態にあり、オープンデータの活用はまだ取り組むことができていないLS研参加企業はできるだけ早くオープンデータ活用を始めるべきだと考える。現在の「データ活用・データ分析」がそうなり始めているように、オープンデータの活用が「競争優位の源泉」から「生き残りのための必須条件」へと変化するからである。